研究課題名　娘介護者における役割間葛藤と調整・交渉プロセスの検討

社会福祉学科　児玉寛子

研究背景・目的

＊近年、これまで主に介護の担い手とされてきた「嫁」に代わり、「娘」を主介護者とする割合が高まっている。
＊「娘」が実親の介護者となる場合、「妻・嫁・母親・きょうだい（姉・妹）」としての役割、就労している場合は職場内での役割も有する。
＊複数の役割を有しながら介護を継続する娘介護者が直面する課題と、課題に対する役割調整、交渉方法を明らかにする。

研究方法

＊対　象　・・・実親を介護した経験のある娘、または実親の介護を現に行っている娘介護者
＊調査方法・・・半構造化面接法によるインタビュー調査
＊分析方法・・・質的データ分析方法に基づいて介護引受けから現在（介護経験者には介護終了）までの時間軸に沿って各局面において生じた課題と複数の役割間での葛藤の有無、対処・調整方法に着目して検討する。

結果・考察

調査対象者の概要は表1に示す。

表1．調査対象者の概要

対象者	年齢	被介護者	介護形態	家族構成（介護中）	きょうだい	就労状況
A氏	72歳	㊀実母	通い→同居	実母、A氏夫婦	㊀兄、弟	非正規→無職
B氏	71歳	㊀実母	通い	B氏夫婦	兄、妹、弟	自営→無職
C氏	58歳	実母	通い→同居	実母、C氏夫婦	姉	正規→無職
D氏	55歳	実父・実母	同居	実父・実母、D氏、妹家族	妹2人	正規
E氏	62歳	実母・義母	通い	E氏夫婦	㊀兄、弟	正規

①介護引受けまでの経緯

実親と同居していた娘以外、介護の引受けは想定外だった。しかし、想定していた介護者への介護期待のあきらめ、自分と実親との相性が合うなどから介護の引受けを選択していた。

②介護役割と他の役割との間で生じる課題

妻役割では、「実親を介護することに夫は理解を示している」と語る一方で「（夫に）さびしい思いをさせない」など、家庭内での妻役割と介護役割との狭間に置かれている様子が推察された。きょうだいとの関係では、実妹には介護協力を期待するものの、「実兄（または実弟）を困らせることになる」との判断から義姉や義妹には協力を要請しない様子が語られた。またきょうだい関係を保つために娘介護者がイニシアティブを取り、看取りや遺産整理など今後予測される事態への事前準備を調整していると語る娘介護者もいた。仕事との両立については、勤務先の男女比によって、生じる課題や対処スタイルが変化する様子が語られた。また就労は気分転換と語る娘介護者もあり、既に報告されているような就労を心理的休息の機会と捉えている様子も推察された。母役割については、対象者全員ともに子どもは独立していたため、子どもは信頼できる情緒的、情報的サポートの提供者として語られていた。

今後は、娘介護者の年齢層を若年世代にも広げ、サンプル数も増やしてさらに詳細な分析を進めいく。